

第57回 武雄市短期経済観測調査（たけお短観）の結果について

下記のとおり「第57回武雄市短期経済観測調査（たけお短観）」を実施し、結果をとりまとめましたので、お知らせします。

結果のポイント

現況のDI値は、前回回復した建設業は現状維持だが、観光業は前回より低迷している。その他の業種も数値が下がっている。物価高騰によるコスト上昇や仕入価格の高騰、消費者の買い控えなどの傾向が見られる。
今後7月から9月にかけての見通しについては、現状維持だった建設業が今後は低減が予想されるなど、全体としても先行きに対する懸念が高まっている。夏休みやお盆の帰省に伴う、人の動きの活発化には一定の期待が寄せられているものの、景気の不透明感が高まる中で、今後も消費者の財布の紐が固くなることが懸念されている。

【武雄市短期経済観測調査（たけお短観）結果】

令和7年6月調査

	前回調査		今回調査			
	A 現況 (R7.3)	見通し (R7.4-6)	調査数	B 現況 (R7.6)	(B-A)	見通し (R7.7-9)
					前回現況 との対比	
総 合	-28	-14	86	-43	-15	-19
農 業	0	0	8	-25	-25	0
建設業	-30	-60	10	-30	0	-60
製造業	-13	-38	10	-30	-17	-10
卸売・小売業	-45	-5	21	-52	-7	-14
観光業	-36	18	10	-70	-34	-20
飲食業	0	29	7	-57	-57	14
サービス業	-32	-26	20	-35	-3	-25

- 調査目的 本市経済の景況感をよりの確に把握するため
- 調査対象 武雄市内事業所 100箇所（業種別内訳は上表参照）
- 調査方法 オンラインアンケート、FAX、電話等による調査
- 調査内容 (1)現在の景況感：良い、普通、悪いのいずれかを回答
(2)3ヵ月後の見通し：良くなる、変わらない、悪くなるのいずれかを回答
- 集計方法 (1)現在の景況感(2)3ヵ月後の見通しについて、それぞれ回答数の構成比を求めた上で「良い(良くなる)」の構成比から「悪い(悪くなる)」の構成比を引いて「現況DI」、「見通しDI」として指標化しました。
例えば、現在の景況感の「良い」が10%、「普通」が40%、「悪い」が50%の場合は、-40となります。
「DI」(Diffusion Index、デフュージョン・インデックス)は、企業や業界の景況感などを数値化した指標の事で、日本銀行の「全国企業短期経済観測調査」(日銀短観)などで用いられています。